

第40回青梅市公共交通協議会議事要旨

日 時 令和4年1月12日(水) 午前10時から午前12時00分まで

会 場 青梅市 行政棟4階 庁議室

出席委員 13名、代理1名

宮口会長、轟座長、佐々木委員、川島委員、島崎委員、黒田委員、秦野委員、藤井委員、
榎本委員、舟窪委員、大栗委員、井上委員、横澤委員、谷口委員(中川代理)

傍聴者数 2名

配付資料 議事次第

青梅市公共交通協議会委員名簿

資料1 報告・協議資料

資料2 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価

資料3 青梅市の地域公共交通に関するアンケート調査

参考資料 地域の多様な輸送資源図

参考資料2 地域公共交通会議

議 事

1. 開会

(1) 新任委員自己紹介

2. 議題

【報告事項】

- (1) 前回協議会の振り返り
- (2) デマンド交通視察
- (3) 広報おうめへ掲載した利用促進記事
- (4) 小学校交通環境学習
- (5) 東京都交通企画課との意見交換

【協議事項】

- (1) 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について
- (2) 青梅市の公共交通に関する課題整理(一部)
- (3) 市民参加型の公共交通利用促進策の提案
- (4) 市民アンケート案
- (5) 地域公共交通会議

3. 閉会

1. 開会
2. 新任委員の自己紹介

【報告事項】

○轟座長

報告事項については一括して、事務局から説明願います。

- (1) 前回協議会の振り返りについて
- (2) デマンド交通視察
- (3) 広報おうめへ掲載した利用促進記事
- (4) 小学校交通環境学習
- (5) 東京都交通企画課との意見交換

○事務局

資料1の2～17ページを説明

○座長

ただいまの説明について何か質問、ご意見ありますか。

○委員

チョイソコについて、バス会社やタクシー会社とともに公共交通を充実させるものであり、互いに乗客を奪うものではないと記載があるのですが、豊明市の実態ではどうだったのでしょうか。コミュニティバスがないところでチョイソコを導入したのか、また競合するバスがなかったのかなどはどうだったのですか。

○事務局

不便地域となっている地域が2つあり、競合するバス路線もコミュニティバスもないところに導入しています。

○委員

小学校交通環境学習について補足説明します。大人でもバスの乗車経験が少ない人もいます。子供の頃にバスと触れ合う機会を設け、身近に感じてもらい、使ってもらうことが大事だと考えています。子供の関心を惹く仕掛けで印象に残る工夫を取り入れ、将来使ってもらうことをねらいとしています。本日配付したパンフレットにあります乗車マナーの絵画コンクールを行うのもその趣旨です。

○座長

長期的にも、バスを身近に感じてもらえるようにすることは大事です。

○委員

青梅市はチョイソコを視察され、今後も検討していく予定ですか。

○事務局

現段階は情報収集で、今後は手法の一つとしてさらに検討していきます。

○委員代理

チョイソコのような運行形態はいくつかの地域で導入されています。運賃が無料のものや有料のものなど、その運行形態は多様にあります。道路運送法上の許可の必要の有無や、希望する運

行形態の可否の判断が必要なため、より具体的な検討を進める段階のときに、運輸局へ相談してほしい。また資料17ページの東京都との意見交換ですが、都による支援と国からの支援と両方になると、その区分けをどう考えておられるのですか。

○事務局

東京都は来年度の予算が確保されれば区市町村を支援する予定で、市にヒヤリングしている段階です。予算がつけば、その中で具体的な内容の意見交換をしていきます。

○委員代理

調査項目が本協議会で予定している検討項目と重複しているとのことなので、都から当該支援を受ける場合は、国とも事前に相談してください。

○座長

東京都の地域公共交通在り方検討会の座長もしています。青梅市は都会と田舎との中間的なところということもあり、ひとつのモデルとなっています。当然運輸局とも調整しながら進めます。

○委員

チョイソコについて、あきる野市の公共交通会議の委員として情報提供します。あきる野市では春から1～2年かけて実証実験が始まります。やはりバスが入っていけない2つの地域において、既存事業者とも共存を図りながら、バスとタクシーの中間的な位置づけとして運賃を設定しているようです。

○座長

各地域でどういうシステムが適しているのかを検討しているということです。

【協議事項】

(1) 令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

○事務局

資料1の18ページ、資料2に基づいて評価内容を説明

○座長

資料2の1ページの事業評価について、②の事業実施の適切性がAとなっていますが、これで良いでしょうか。また来年度以降の取組はいかがでしょうか。

○委員

評価についてはこれで良いと思います。調査に関して計画策定方針で郊外部の公共交通だけでなく、市街地部分も含めて見直すとしてほしいです。市街地でも相当手をいれないといけないと思っています。河辺から明星大学までのバスは、現在土日に一便運行していますが、3月には廃止になります。長渕地区でも20年以上赤字を続け内部補助で運行していますが、次第に無理になってきています。三ッ原循環なども赤字路線です。本当に必要な路線について本協議会で議論してもらいたいです。

○事務局

市街地部を追加いたします。

○座長

それでは、「市街地および郊外部の公共交通の再編」として修正してください。

(2) 青梅市の公共交通に関する課題整理(一部)

○座長

事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料1の19～26ページを説明。

○座長

抜けている課題など何かご意見ありますか。

○委員

21ページ以降になりますが、前回協議会で欠けている分析・視点や方向性の違いについて5点ほど指摘しましたが、今回の課題とどう関わるのか、また改善方向はどうか出してもらわないとコメントしにくいです。今井地区など分析の空白があるし、また個別地区の分析だけでなく市全体を眺めた視点が抜けていると思います。

○座長

私も全体の視点が必要だと思います。今後のスケジュールはどうなりますか。

○事務局

本日の議論をまとめて、市としても検討していきます。

○座長

次回は改善の案などがでてくるのですか。

○事務局

2月に実施を予定しているアンケートの結果をもとに、課題を抽出したいと考えています。

○座長

早めにポイントを出すようにしてください。

○委員

全体像が見えていないと思います。例えばチョイソコとも関連して、市内の道路条件を見てバスが入れるところかどうかは課題で、この2地区にしてもバスが入れるのかどうかを見たほうがいいでしょう。河辺については22ページと25ページに度々出てきますが、地図と内容もあっていないし、まとめていったほうがよいのではないのでしょうか。

○座長

やはり北部と市街地の特性の違いを示すとよいでしょう。

○委員

26ページで青梅線の乗車数が平成25年に急に増加していますが、その原因は为什么呢。

○委員

確認して、後日回答します(以下は、後日文書による回答)。

公表する平均乗車人員は「乗車券」の発売データを基に算出しており、平成26年4月の消費税率引上げによる乗車券(定期券・普通乗車券等)の先買い(平成25年度へのシフト)の影響を受け、平成25年度に増加、平成26年度に減少しました。なお、これは全国的な傾向で、青梅市主要3駅に限った結果ではありません。

○委員

青梅線と五日市線は減少が目立ちますが、これは沿線人口の減少という以外に、何か原因が

あるのでしょうか。

○座長

ご指摘の点について、しっかりと検証するとよいでしょう。

○委員

19ページで時代潮流として4つ挙げていて、一般的なこととしてはこのようなことかもしれませんが、公共交通を考えると、本命は青梅市の人口問題とまちづくりがどうなるかということでしょう。(3)が二重丸、(4)が一つ丸、(1)と(2)はその次というように、強弱をつけて大事なポイントをしっかり書いた方がいいと思います。

○座長

確かに強弱が必要ですね。また新しい技術についても加えてください。自動運転とか空飛ぶ車も出てきたし、チョイソコのようなものもあります。特に情報化ですね、うまくデータを活用してエビデンスをとっていくことが重要です。

○委員

今回の議論で方向性を検討することになるのですか。

○事務局

皆さんのご意見を色々といいたきたいと思っています。

○委員

ではどこを検討すればよいのでしょうか。現況を見て地区別にここはどうかと検討していけば良いのですか。

○事務局

地区別に検討していただければと考えています。

○委員

河辺はこれまでの取組でいいとか、成金はこれまでの方向性はどうとか、またそうではなくてゼロベースでやっていくのか、ということでしょうか。

○事務局

河辺、北部はこれまでの方向性をベースにしていき、他の地区はゼロベースで検討していきたいと思います。

○委員

多様な輸送資源は方向性に入れるのでしょうか、北部にも入れて考えるのでしょうか。どこまで具体的な意見を言えばよいのか、良く分からないのですが。

○座長

方向性についての議論は、原案が全くないので難しいのではないですか。24ページの黒沢地区ではどうするか、北部地区はどうするか、コロナ禍ではありますが来訪者への対応をどうするか、それらをまた議論するということなのですか。

○事務局

その通りです。

○委員

地区別については、あまり意見はありません。他の交通手段であるとか、技術などを入れていつてほしい。例えば青梅線は市の範囲を超えた課題で、そうなるともっと広域的に移動を検討してい

く必要もあります。

○座長

路線バスでも市域を越えているものがあります。東京都と一緒に検討するのが良いかもしれません。

○委員

青梅線は沿線人口が減っているので、現状維持をいかに図るか、あるいは減便とするのか、しっかりテーマをもって考えないといけません。人口が増えなければ輸送は増やせないのですが、観光でもっと増やすのだというのであれば、また可能性は出て来るのですが。

○座長

その方向性をどうするかは、都市の在り方、まちづくりなどの全体像をしっかり出していくことが大事です。山間部では交流人口を増やすことが重要であるし、コロナでマイクロツーリズムが盛んになったことで青梅の可能性が出ています。また鉄道とバスの連携も重要で、全体としてラストワンマイルをどうしていくかということになります。駅までのアクセスをどうするか、自転車の活用とか、近年だと電動キックボードもあるし、駅の集客システムをつくっていくということが重要です。

○委員

まちづくりでは、コンパクトシティーの観点から立地適正化計画の推進が国からも言われているが、青梅市は面積が広いという課題があります。令和4年度で青梅市は次期長期計画の基本構想を策定する段階ですが、相互に情報交換しながら進めていきたいと思っていますが、まだ、まちづくりの情報はあまり出て来ていません。

○座長

資料1の20ページのところに加えてください。

(3) 市民参加型の公共交通利用促進策の提案

○座長

それでは(3)に移ります。説明をお願いします。

○事務局

資料1の27～31ページに基づき説明。

○座長

この提案を実際に動かそうということですか。

○事務局

これは提案ですので、ご意見をいただいて考えていきたいと思います。

○座長

現状でなにかやっていますか。

○事務局

現状ではやっていません。ただJRさんはいろいろ取り組んでおられます。

○委員

バス停の写真展は、SNSでバズるものがあると思います。逆にそれを狙ったバス停が出てくるかもしれません。コンクリづくりのバス停があって、それが珍しいと若者が写真を撮っています。

○委員

変わったバス停はあまりないので、バス車両もありとした方がいいでしょう。交通サポーターについて、かなり大変な例が出ていますが、色々な事例を研究して、適当な取組のレベルを設定していけばよいのではないかと思います。深堀していくといいのではないのでしょうか。

○座長

バス停をメインに撮影している写真家があります。あとは人物を入れてもいいでしょう。

○委員

配付したJRの取組資料を説明。

○委員

市民参加ということは大事です。人口減少で、地域の人にとっては利便性を確保することが大事です。また来訪者にとっても利便性が大事で、来訪者の利便性をどう高めるか検討していく必要があります。

○座長

やはり移動する目的を創ることが大事です。この前、お世話になった先生にお会いしたら「きょう、きょういく」が大事になったというので、なんだろうと聞いたら、「今日用の、今日行くところがなくなっていくなくなった」と言われました。MaaSのような観光施設や商業施設と連携して、実現に向けたスケジュールなど、次回には具体的な提案をお願いします。

(4) 市民アンケート案

○座長

ではアンケートに移ります。

○事務局

資料1の32～33ページ及び資料3を説明。

○座長

ではご意見ありますか。

○委員代理

調査対象が18歳以上となっている点が気になります。高校生など運転できない人の意見も拾った方がよいのではないのでしょうか。参考までに、観光庁の「旅行・観光消費動向調査」は0歳から対象として実施しているため、趣旨を理解できないので回答できないということはないかと思われます。

○座長

郵送でやると、高齢者が多くなる傾向があります。

○委員

ウェブでアンケートする方法もあります。質問7では、そもそも公共交通に関心をもっているかどうか聞いたらどうでしょう。また満足度と重要度を聞いているが、満足度だけでいいのではないかと思います。1つのアンケート票で2人に聞くのは、やはりそれぞれ意見がバラバラなので混乱し、回答が難しくなるのではないのでしょうか。前回はどうしていたのですか。

○事務局

前回のアンケート票も、今回と同様の様式でした。

○委員

アンケート対象だが、バスの最大ユーザーは高校生なのだから、高校生は必須ではないですか。例えば地元高校にお願いすれば配付回収もできるでしょう。また質問5の③は公共負担削減について、市民に直接聞くようなことかどうか、あまり中立的ではないと思います。バス路線の維持継続についての質問なので、むしろ何をすればもっと利用するようになるかというような質問のほうがいいのではないのでしょうか。

○委員

2月にアンケートするとのことだが、新型コロナに関する質問で、今後テレワークとリモートでの会議、授業などで通勤通学需要がどうなるかを聞いてもらえると参考になると思います。

○座長

どうなるか関心ありますが、なかなか難しい面もあります。

○委員

最低限高校生は入れて欲しい。最近自家用車の送迎が増えて、学校の近くが交通混雑するようなことも起こっています。質問3では普段鉄道を利用していない人にも駅までの交通手段を聞くとよいでしょう。バス利用については、近くにバス停があるのに利用しない人がいるのかを聞きたいです。

○座長

アンケート対象の問題、2人並んだ回答の問題、郵送だけでなくウェブもやる、高校への依頼があげられました。質問6は全部必要だと思う人が出てくるので、6ページのバスと同じように聞いた方がいいかもしれません。

○事務局

2人目では18歳以下となることを想定していました。新型コロナの影響に関してはテレワークなども聞いていきたいと思います。また質問5の③は削除し、質問7は質問の文言を修正します。その他お気づきの点やご意見がありましたら、20日頃までに事務局へお知らせください。

○座長

他に何かありますか。

(5) 地域公共交通会議

○事務局

参考資料2を説明。

○座長

これについてご意見等ありますか。

○委員

他自治体の地域公共交通会議に参加しています。より踏み込んだ協議ができるので、早期に設置するようお願いします。

○会長

青梅市総合長期計画審議会をこれまで3回開催しました。青梅の自然や歴史を市民がどれだけ感じているのか、その意識づけを十分にやっていく必要があります。学校と地域の連携の必要性、自治会の加入率の減少といった課題があります。今回の学校環境学習と同じようなことができ

ないかと考えています。

以上をもちまして、第40回青梅市公共交通協議会を閉会いたします。円滑な議事進行ありがとうございました。

○事務局

事務連絡をお伝えします。次回は3月の開催を予定しています。委員の皆様には、後日開催通知をご送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上